

ロンドンの大気汚染削減策の現状 ⑤

C40 世界大都市気候先導グループ (C40 Cities Climate Leadership Group) について

C40 世界大都市気候先導グループ (以下、C40) とは、2005 年に前ロンドン市長のリビングストーン氏によって提唱され発足した地球規模の気候変動対策に積極的に取り組む世界の大都市の組織です。本部をロンドンに置き、現在の理事長は前ニューヨーク市長のブルンバーグ氏で、様々な大都市の課題に対して解決策を探るべく、分科会があり活発に活動しています。例えば、水の問題や事業所や住宅の低炭素化、大気汚染の問題等々で考え方や施策を共有化し解決に取り組んでいます。

当初は、世界の人口 100 万人以上の 18 の大都市がメンバーでしたが、現在は 80 の大都市が参加しており、その人口は 5 億 5 千万人で、全世界の GDP の 1/4 を占めこれまでに大小 8000 件の施策を立ち上げており、結果として 2020 年には、1 ギガトン炭素 (車 2 億台相当) の削減が見込まれています。

今年 6 月に設立されたばかりの分科会「世界バスサミット」がロンドンで開催されました。名のごとく世界の大都市を走っている有力な大気汚染の元凶でもあるディーゼルバスの低炭素化 (電気自動車化、ハイブリッド化、燃料電池車化) が議題でした。参加したのは 20 の大都市の市長と世界の有力なバスメーカーで、英国のデニス社、ドイツのメルセデス社、スウェーデンのボルボ社、中国の BYD 社でした。残念ながら日本のバスメーカーの名前はありませんでした。

ホスト役のロンドンのジョンソン市長は「ロンドンのアイコンである赤い 2 階建てバスはこれからグリーン (低炭素化の意味) に変わります。特に EV バスの普及は世界の大都市に刺激を与え、ロンドンが大都市でありながら「きれいな空気」都市のリーダーとなるはずです。」と語っています。また、リオデジャネイロのバイス市長は「きれいな排気ガスバスを世界の都市に普及させることは、大気汚染から市民の健康を守ることと同じであり、このきれいな排気バス宣言を、12 月にパリで行われる COP 21 で、世界のリーダーたちが認識し、熱意を持って普及の一端を担ってくれることを願っています。」と述べています。

C40 の主要メンバー大都市 (太字は、Steering Committee - 運営委員都市)

- ・ アフリカ : **ヨハネスブルグ**、エジプト、ケープタウン、他 6 都市
- ・ 東アジア : **香港**、ソウル、北京、上海、**東京**、横浜、他 5 都市

- ・ヨーロッパ：アムステルダム、ベルリン、パリ、**ロンドン**、**コペンハーゲン**、ローマ、マドリッド、ローマ、ミラノ、ストックホルム、他10都市
- ・ラテンアメリカ：**ブエノスアイレス**、**リオデジャネイロ**、メキシコシティ、他8都市
- ・北アメリカ：ボストン、ニューヨーク、シカゴ、**ロスアンゼルス**、サンフランシスコ、ヒューストン、トロント、バンクーバ、他6都市
- ・南西アジア：**アンマン**、**ダッカ**、**ドバイ**、**カラチ**、他4都市
- ・東南アジア・オセアニア：**ジャカルタ**、**バンコク**、メルボルン、シドニー、シンガポール、他2都市

ロンドンではC40設立のオリジナルメンバー都市で、C40の主旨に沿った様々な革新的な施策を発表すると共に、それらを実行し着実に成果を出しています。特に、英国内の英知を結集して作り上げた渋滞税制度は、市中心部への車の乗り入れ台数が1日平均で70,000台削減、CO2は18%削減され、それにリンクさせた現在の低排気ガスゾーンから2020年には更にきびしくなる超低排気ゾーン制度の低炭素化政策は高く評価されています。

今年10月からスタートした2階建てバスの低炭素化の一環であるEV化の実用化試運転は、専用バッテリーの英国と中国の共同開発で実用化の目途を付けたもので、他のメンバー都市への普及促進の役目を果たすものと思われます。ちなみに、東京は2006年にメンバー都市として参加し、運営委員都市にも指定されています。そろそろ運営委員都市に相応しい革新的な施策を発表し、2020年の東京五輪・パラリンピックを目指して、実行に移行し成果を出すことを期待したいですね。（了）